

■平成30年度

市立横手病院 総務課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析[outcome]		
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果	
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績(具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・現在の状態)	(目標達成のために行った取組・行動)	(目標の達成による効果、目標達成できなかった事由)	
業務改善取組①	総務課	経営健全化のための取り組み	A	診療報酬改定へ適切な対応を図りながら、健全経営の継続を目指す。	経常利益の確保	年度末	経常収支比率 101.0%	・収益の確保 ・入院患者数の減、施設基準取得に向けたマンパワーマネジメントの実施 ・医薬費用の抑制 ・薬品、材料、光熱水費等医療の提供に必要な費用の低コスト運営	8月末収支状況 経常収支比率 103.3% 入院患者数の減、人件費増、費用増はあるものの外来収益・材料費の減により、64,166千円の純利益、(H29 146,707千円 △ 82,541千円) 毎月、事務局会議を開催し、入りと出の状況について情報共有を図った。	入院患者数増への取組強化 ・現状、原因の分析実施 ・薬品、材料、光熱水費等医療の提供に必要な費用の低コスト運営及び事務局会議の継続。	2月末収支状況 経常収支比率 100.8% 入院患者数の減、人件費増、費用増はあるものの外来収益・材料費の減により、37,329千円の純利益、(H29 135,021千円 △ 97,692千円) 毎月、事務局会議を開催し、入りと出の状況について情報共有を図った。	診療報酬改定情報を的確に把握し、当院に有利な基準の取得に努めた。 ・本年度より、入院患者の大幅な減があったものの外来患者数の伸び、地域包括ケア病棟への有効なベッドコントロールの実施、経費削減の取組等について実施した。	入院患者数の減、人件費の増、重油・電気料の単価増があったものの黒字決算になる模様である。	
重点取組①	総務係	働きやすい職場環境の構築	A	仕事をしやすい、働き甲斐のある職場にするため、職員を大事にする政策を進める。	看護師の減少や業務の多様化により、一人あたりの業務量が増え高ストレス者が増加していると思われる。また、全国的に医師の業務量が増えていることも問題になっている。	平成30年度末まで		・子育て支援課との院内保育所設置についての協議 ・看護師養成施設等へ訪問し募集案内、奨学金制度を説明 ・就職説明会、企業説明会への積極的な参加や職員募集用のHPの改修 ・各部署に必要な適正な人員の確保 ・医師の勤怠管理の整備及び時間外勤務削減に向けた業務改善	・看護系大学主催の就職説明会に参加 ・働きやすい職場づくり検討会の実施 ・ストレスチェックの実施 ・勤務時間把握のためICカード認証による出退勤管理システムを今年度中に導入	・就職説明会の配布資料を新たに作成し、受験者増員につながるようわかりやすい説明を目指す ・出退勤管理システムの細かい運用について検討 ・院内保育所設置に向け、設置箇所等の決定を目指す	・看護師6名の増員 ・勤務時間把握のためのICカード認証による出退勤管理システムを導入 ・働きやすい職場づくり検討会、全職員を対象にしたアンケート調査を実施	・就職説明会の配布資料を更新。 ・出退勤管理システムの導入に伴い、システムの運用方法等の周知を細かく行った。 ・院内保育所設置について、全職員を対象にしたアンケート調査を実施。	・看護師増員に伴い、今後、勤務軽減が図れる。 ・出退勤システムの導入により、職員の出退勤時間の把握が可能になった。 ・院内保育所設置検討に向けた様々な意見を集約することができた。	
重点取組①	企画係	臨床研修医の確保	A	研修医のフルマッチ	臨床研修プログラムの定員4名	平成30年度中	4名	・地元秋田大学の他、隣県大学等の説明会に参加 ・レジナビやレジフェアなど合同説明会への参加	医学生勧誘事業への積極的な参加 5/27 レジフェア東京(水道橋) 6/2 青森県医師臨床研修合同説明会(弘前大学) 6/29 病院独自説明会(秋田市) 7/15 レジナビ東京(東京ビッグサイト) 9/7 秋田県臨床研修病院合同説明会(秋田大学) 9/27 レジナビ名古屋(名古屋)	現在、来年度臨床研修医マッチング希望者2人確保。 研修今後の医学生勧誘事業参加予定 10/28 レジナビ仙台(仙台市) 2月 秋田県臨床研修病院合同説明会(秋田市)	・2名の研修医をマッチングにより採用 加えて、秋大医学部付属病院より2年目の研修医が派遣されること。 また、各種医学生勧誘事業に積極的に取り組んだ結果、病院見学希望学生の増につながった。	医学生勧誘事業への積極的な参加 10/28 レジナビ仙台(仙台市) 2/8 秋田県臨床研修病院合同説明会 3/10 レジナビスプリング東京	初期研修医のフルマッチとはならなかったものの、各種医学生勧誘イベントに積極的に参加することで、病院見学希望学生の増につながった。	
重点取組③	管財係	診療材料・薬品納入価格の適正化	A	診療材料・薬品納入価格	診療報酬改定に伴う材料価格・薬価額の下落	年度末		他医療機関とのベンチマーク分析による平均値	各ベンチマークシステムへの登録と分析の実施	診療材料及び薬剤のベンチマークシステム実績を参考にした本年度価格交渉の実施。	平成30年度契約価格のベンチマークシステムへの登録及び分析結果も基づいた再価格交渉。	ベンチマークシステムを利用して薬剤・診療材料の価格交渉を行い、経費削減に努めた。	各ベンチマークシステムへのデータ登録及びデータ活用に関する研修会への積極的な参加。	診療報酬改定に伴い、薬価額の引き下げもあったため、厳しい価格交渉となった。薬品については、10月より卸統合により1社減となった。
重点取組④	施設係	施設整備計画の策定	A	良質な医療の提供と患者サービスの向上を目的とした、施設設備の改修・更新の基本計画を策定する。	施設設備の改修・更新計画の一部が未決定	平成30年度中		・施設設備の改修・更新計画の決定 ・基本設計の完成	・施設整備基本計画策定委員会での計画決定 ・基本設計業務委託契約の締結	・委員会の開催10回 ・施設設備の改修及び更新についての基本計画が決定。	・設計業者による概算事業費の積算 ・概算事業費をもとに計画範囲の再調整、事業内容の精査	・施設整備基本計画(概算事業費の積算含む)の策定が完了。 ・基本設計業務委託の契約に至らず、次年度へ持ち越した。	・委員会を16回開催し、基本計画の方向性を協議した。 ・設計業者へ基本計画策定業務を委託	・施設整備基本計画の策定が年度内に完了することができたが、基本計画の方向性の協議に時間がかかり、基本設計業務委託の契約に至らなかった。

■平成30年度

市立横手病院 医事課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・現在の状態)	(目標達成のために行った取組・行動)	(目標の達成による効果、目標達成できなかった事由)
業務改 善取組 ①	医事課	経営健全化のための取り組み	B	平成30年度診療報酬改定を踏まえて、医療の質の向上及び収益確保に結び付く適切な施設基準、診療報酬加算等の確保	急性期一般入院基本料等の確保及び各種診療報酬加算の取得	平成31年3月末	期首に確保している基本料や加算等の確保及び期間内における加算項目の取得又は取得準備	急性期病院としての看護基準等の確保に関するデータの提供及び加算項目の取得に必要な要件等の調査、分析、報告	急性期一般入院基本料 I については上半期において確保するとともに医療安全対策地域連携加算 I 等の取得をした	引き続き、入院基本料等の確保に努めるとともに、更なる加算取得等に向けての必要要件の調査、分析等を進める	急性期一般入院基本料 I についてはおいて通年で確保するとともに医療安全対策地域連携加算 I 等の取得をした	データの提供及び加算項目の取得に必要な要件等の調査、分析、報告等を関係部署と共同して行った	基本料や加算等についてほぼ確保できたがマンパワーの確保等の課題もあり、継続していく加算項目もあった
重点取組 ①	医事課	安全で質の高い医療の提供①	B	チーム医療の充実や強化を図り、良質な医療の提供を目指して、医療事務担当として積極的に関わる	入退院支援の強化を図るため、外来から入院、退院という流れに多職種で連携を充実・強化する	平成31年3月末	入退院支援加算及び入院時支援加算を算定できるように多職種での連携を図る	現状分析と必要な施設基準等を確認し、多職種によるWGによる取得に向けた検討・準備を行う	入退院支援加算については準備を進め、加算 II については7月1日より算定開始した。入院時支援加算については専従職員の配置等の関係から引き続き、検討、分析を行った。	引き続き、加算取得等に向けての多職種による必要要件の調査、分析等を進める	入退院支援加算については準備を進め、加算 II については7月1日より算定開始した。入院時支援加算については専従職員の配置等の関係から対費用効果が見込めないために取得を見送ることとした	加算取得等に向けての多職種による必要要件の調査、分析等を進めた	診療報酬改定の内容をよく検討し、また院内データ等から収益確保の点も踏まえて対応できた
重点取組 ②	医事課	安全で質の高い医療の提供②	B	わかりやすい診療実績等の積極的な発信により、地域の人々に信頼される病院を目指す	診療実績や臨床指標等の公表を行うとともに分析を行う	平成31年3月末	診療実績等について適切に集計し、統計的なデータとして公表する。また、他の医療機関とのベンチマークを行使えるようことを目指す	診療情報に関わるシステム等を活用し、データ収集、分析を行うとともにHP上でも公表する	国で指定した診療実績・臨床指標等については9/28付でHP上で公開した。また、院内における活用を図れるように努めた	引き続き、適切にデータを集計し、分析することで安全で質の高い医療の提供に資するとともに公表に努めていく	国で指定した診療実績・臨床指標等については9/28付でHP上で公開し、他の指標等は院内における活用を図れるように努めた	安全で質の高い医療の提供に資するため適切にデータを集計し、分析を進めた	国の指定した指標は公表できたが、他の医療機関とベンチマークを行使るまでのデータ等の加工には至らなかった
重点取組 ③	医事課	地域包括ケア推進のための取り組み	B	退院困難な患者さんを支援することや地域包括ケア病棟の適切な運用を行い、在宅復帰への支援を行う	・平均在院日数12日 ・在宅復帰率70%以上	年間を通じて	・平均在院日数12日 ・在宅復帰率90%以上	退院支援委員会(月1回)及び退院調整会議(週1回)の開催及び退院先である福祉介護施設職員との研修会の開催を通じて顔の見える連携の推進を図る	退院支援委員会6回、退院調整会議を25回開催した。福祉介護職員向け研修会は9/14に開催し、34施設58名の参加を頂いた	引き続き、退院支援委員会及び退院調整会議を定期的に開催するとともに平均在院日数及び在宅復帰率の目標値を達成する	退院支援委員会12回、退院調整会議を49回開催した。福祉介護職員向け研修会は9/14に開催し、34施設58名の参加。年間の平均在院日数はほぼ12日、在宅復帰率は90%を上回った	退院支援委員会及び退院調整会議を定期的に開催して目標値の達成を図った	平均在院日数はほぼ目標値の水準を確保、在宅復帰率は90%を年間通じて確保でき、地域包括ケアの循環に貢献できた
重点取組 ④	医事課	地域医療連携の更なる推進	B	紹介・逆紹介患者数の増加	対前年比で増加を目指す	年間を通じて	対前年比、紹介で100人、逆紹介で50人以上の増加を目指す	・広報誌の発行 ・診療所訪問(7・12月) ・地域医療連携セミナーの開催等	広報誌「かじか第14号」を発行。7月には診療所51ヶ所の訪問を実施した。紹介患者数は上半期で1678人(前年同期比76名減)、逆紹介は1288名(42名増)となった	地域医療連携セミナーを11/7に予定。また12月に診療所訪問を予定している。紹介患者が上半期で前年割れであり、年間では増加となるように努めていく	紹介患者数及び逆紹介患者数は前年より上回ることが見込まれる	広報誌「かじか第14号」を発行。7・12月には診療所訪問を実施した。地域医療連携セミナーは11/7に開催した。	地域の医療機関と連携し、地域の患者さんの医療を支える役目を果たすことだできた